

令和4年度学校評価 教職員アンケート集計結果

[内部評価 対象:教職員]

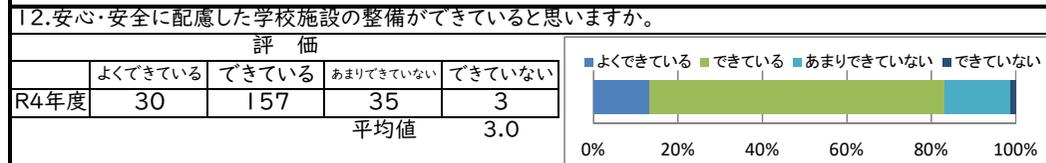
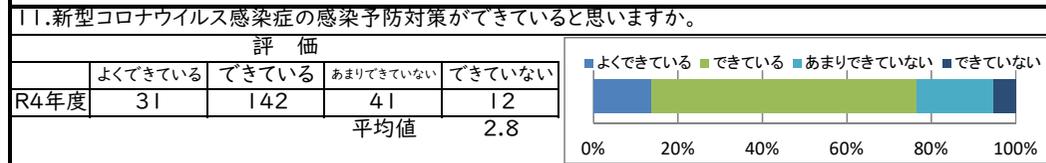
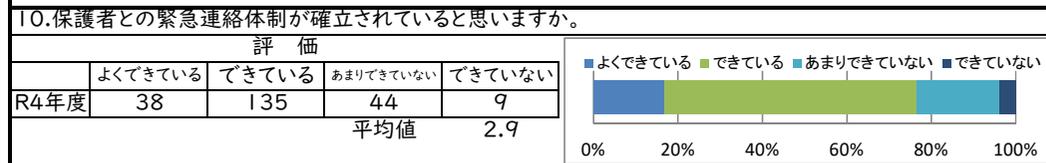
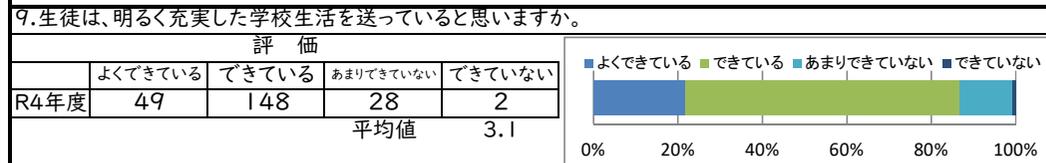
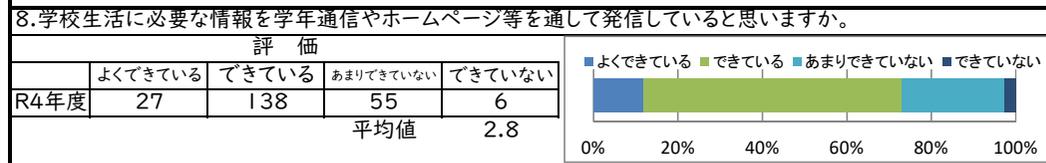
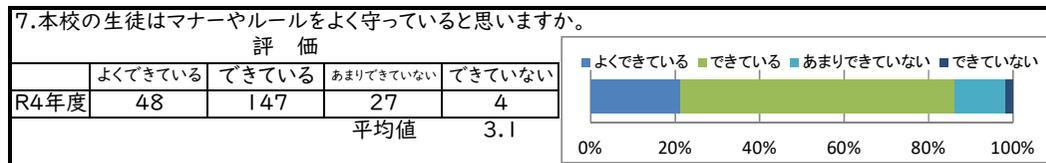
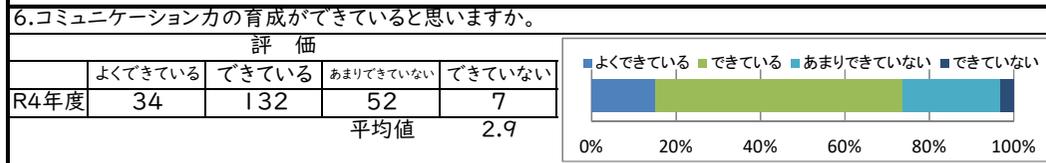
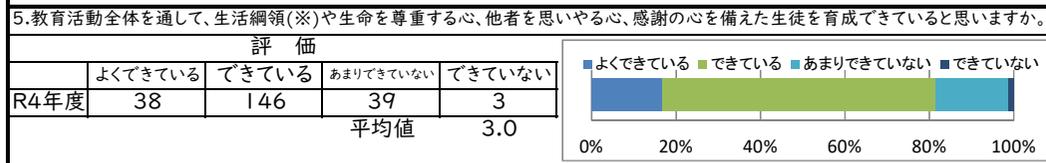
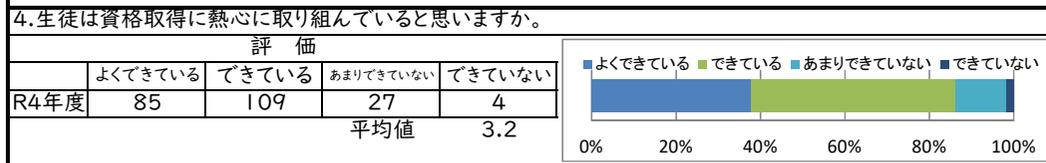
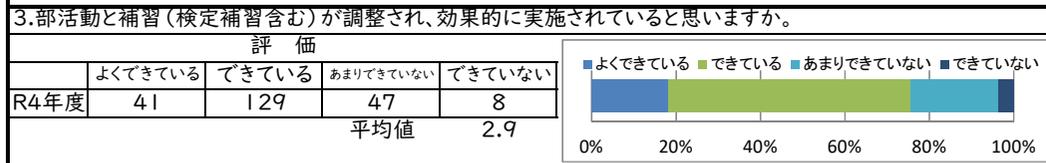
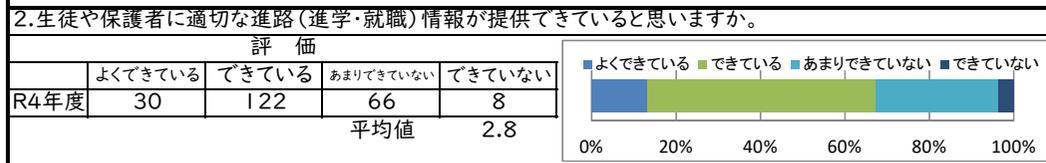
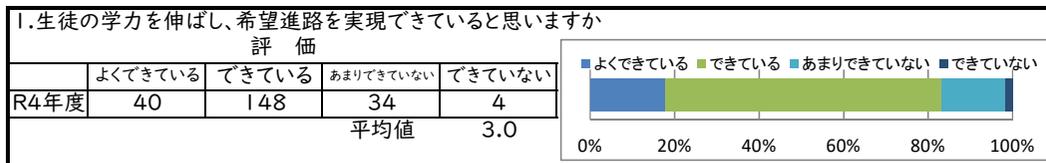
[43名]

| No | 質問内容 | 平均値 |
|----|--|-----|
| 1 | 生徒の学力を伸ばし、希望進路を実現できていると思いますか。 | 3.0 |
| 2 | 生徒や保護者に適切な進路(進学・就職)情報が提供できていると思いますか。 | 3.0 |
| 3 | 部活動と補習(検定補習含む)が調整され、効果的に実施されていると思いますか。 | 2.6 |
| 4 | 生徒は資格取得に熱心に取り組んでいると思いますか。 | 3.1 |
| 5 | 教育活動全体を通して、生活綱領や生命を尊重する心、他者を思いやる心、感謝の心を備えた生徒を育成できていると思いますか。 | 2.9 |
| 6 | コミュニケーション力の育成ができていると思いますか。 | 2.8 |
| 7 | 本校の生徒はマナーやルールをよく守っていると思いますか。 | 2.8 |
| 8 | 学校生活に必要な情報を学年通信やホームページ等を通して発信していると思いますか。 | 3.1 |
| 9 | 商品開発や販売実習は、本校の特徴的な取り組みの一つになっていると思いますか。 | 3.1 |
| 10 | 明るく充実した学校生活を送っていると思いますか。 | 3.0 |
| 11 | 保護者や卒業生、地域・地元企業等と連携を図りながら、生徒が社会を感じることができる機会が十分設定されていると思いますか。 | 3.0 |
| 12 | 保護者との緊急連絡体制が確立されていると思いますか。 | 3.0 |
| 13 | 生徒のキャリア形成を支援するためのキャリア教育推進体制が構築されていると思いますか。 | 3.0 |
| 14 | 教員の教科指導力を向上させる体制が構築できていると思いますか。 | 2.6 |
| 15 | 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策ができていると思いますか。 | 3.3 |
| 16 | 安心・安全に配慮した学校施設の整備ができていると思いますか。 | 2.9 |
| 17 | あなたは、生徒の学力を伸ばし、進路実現に向けた指導ができていますか。 | 3.0 |
| 18 | あなたは、進路情報を十分に理解し、生徒の進路指導に当たることができていますか。 | 2.8 |
| 19 | あなたは、授業見学、公開授業の実施、生徒からの授業評価(アンケート等)などを通して、自身の授業力向上に努めていますか。 | 2.8 |
| 20 | あなたは、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行なっていますか。 | 3.0 |
| 21 | あなたは、生徒の考える力を引き出すことを意識した授業を行なっていますか。 | 3.1 |
| 22 | あなたは、コミュニケーション能力の向上を図ることを意識した授業を行なっていますか。 | 3.1 |
| 23 | あなたは、課題提出ができていない生徒などに対する指導を十分に行っていますか。 | 3.0 |
| 24 | あなたは、部活動に熱心に関わっていますか。 | 2.8 |
| 25 | あなたは、生徒指導力向上のための取組を行なうことができていますか。 | 2.9 |
| 26 | あなたは、生活綱領(※)にある目指すべき生徒像を意識した教育を行なうことができていますか。 | 3.0 |
| 27 | あなたは、生徒との挨拶を積極的に交わしていますか。 | 3.5 |
| 28 | あなたは、個人情報の管理・漏洩には十分に気をつけていますか。 | 3.6 |
| 29 | あなたは、ワークライフバランスを意識した生活ができていますか。 | 2.8 |

平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。

※ 生活綱領 ・「自分で考え自分で行う人となろう」 ・「創意工夫に生きる人となろう」 ・「共に喜び生きる人となろう」

令和4年度 学校評価 保護者アンケート集計結果（保護者237名回答）



平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。
 ※生活綱領「自分で考え自分で行う人となろう」「創意工夫に生きる人となろう」「共に喜び生きる人となろう」

令和4年度 学校評価報告

[内部評価] 対象:各専門部・学年

A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

| | 重点目標 | 成果 | 評価 | 課題 | 改善策等 |
|--|---|---|--|--|---|
| 総務 | ・各部・各学年・各科・PTA・琴陵会(同窓会)との連携を密にし、学校前提の円滑な運営に努める | ・新型コロナウイルス関連で各行事の中止や、規模を縮小しての実施を余儀なくされたが、校務運営委員会などを通じて、スムーズな運営を図った。 ・集会行事などは、動画配信システムの導入により、各HRにおて一斉配信で実施することができた。 | A | ・年間行事予定からの行事変更が見られた。コロナ禍においても実施可能な行事の方法等、実施について見直しを行う必要がある。 ・動画配信システムの有効活用。 | ・年間行事計画の計画段階で、各種行事について感染症防止策を取りつつ実施できる計画をたてる。また、行事の精選を図る。 |
| | ・広報活動の工夫と充実を図り、本校の特色(魅力)や情報を学校内外へ発信する。 | ・学校紹介や部活動紹介の動画作成や学校ホームページの更新など外部への情報発信回数を増やすことで、本校(商業高校)の特徴や魅力を伝えることができた。 ・各中学校へ学校紹介に行くことで、オープンハイスクールへの参加者が増えた。8月、11月の2回にわたりオープンハイスクールを実施し、520名を超える中学生、330名を超える保護者が参加した。 | A | ・オープンハイスクールの申込時期や、中学3年生の進路選択の情報提供として、学校案内パンフレットなどの広報資料を早い段階で作成・配布する必要がある。 ・ホームページに関しても、姫路商業の授業や部活動、取り組みなど学校の特色を幅広く情報を発信することで学校への理解を深めることにつながる。 | ・学校ホームページでは、各部署・学年との連携を図り、情報提供や情報発信など学校全体で取り組む必要がある。また、情報発信の頻度についても新しい情報を随時発信していく必要もある。 |
| | ・LHR や講演会などを通じて災害と人権等、今日的な人権問題について触れ、その実態を学んで理解を深める。 ・人権にかかわる問題の解決に向けて自主的に行動できるよう人権意識を高める。 | ・人権LHRを通じて人権の問題について各種教材を用い考える機会を定期的に持つことができた。 ・定期的に人権推進委員会を開き、各部・学年と連携して人権問題への理解に努めることができた。 ・今年度は講師をお招きし対面で職員研修会を開催することができた。また生徒に対する講演会も講師の先生をお招きし、先生方のご協力をいただいて校内配信システムによって実施することができた。 | B | ・1学年を対象に実施すべき人権アンケートを今年度実施できなかった。 ・人権学習の際に、知識や情報を生徒に伝えることにかかる時間と、生徒同士が話をするにかける時間のバランスがとれていない傾向にあったように思われる。正しい知識や情報を生徒に伝えることは重要である。そのうえで、生徒同士が話をする時間は「一人一人が、自身の人権意識を見つめなおす機会」につながるため必須である。生徒同士が話をする時間を確保することが必要であると思われる。 | ・人権アンケートについて今日的な課題に向けて項目から見直しを図り、アンケートを実施し、結果を全体で共有できるようにする。 ・年に2回実施される人権LHRの機会を、1回目と2回目のテーマを関連付けて実施することで、知識や情報を主に学ぶ時間と、生徒同士が話をする時間の両方を確保できるのではないかと。 |
| ・図書委員が中心となって図書室の整備や書籍管理を行うなど、生徒自身が自発的に行動できるよう指導し、積極的に図書室を活用できるよう取り組む。 ・Surfaceや新聞を利用した図書室の幅広い利用を促す。 | ・図書委員会を通じて図書室の整備や書籍管理・帯出業務などに取り組ませることができた。 ・定期的に図書委員会を開催し、書籍の選定、『図書だより』の発行、図書室の環境改善などに取り組むよう指導することができた。 ・入試準備や授業に新聞・書籍・Surfaceの利用を勧めることができた。 ・調べ学習やプレゼンテーションに図書室の設備を生かす機会を増やすことができた。 | B | ・図書委員会では、書籍の利用促進に向けたさらなる積極的な取り組みを指導することが必要である。 ・書籍の環境整備、整理・分類が必要である。 ・生徒自身が普段の生活や学習の中で疑問をもち、自ら調べ、考えるよう指導することが必要である。委員会活動においても、まだまだ「指導待ち」状態である。 | ・図書委員会において、図書室の利用促進を図る具体的な企画や『図書だより』の紙面構成など自主的に考える機会を増やす。 ・Surfaceについては、より利便性を高めるため協力を依頼し、職員全体での連携をはかる。 ・昼休みや放課後の委員会活動や生徒開放での管理業務を通じて、書籍を大切にすることを促す。 | |
| 教務 | ・自ら学び、自ら考える力を育成するため、各教科内研修(公開授業)を推進し、授業改善を勧める。研究授業を行い授業改善・自己研鑽に努める。 ・能力・適性、興味・関心、進路に応じた教育課程の研究に努める。 | ・公開・研究授業を行い、教科内研修を推進した。 ・ICTを活用し、1年生はタブレットを利用した授業などの展開が行われた。 | B | ・すべての教科で公開・研究授業を実施できなかった。 ・実技科目(芸術)などで実技の課題をタブレットで撮影し提出させるなどの工夫も見られたがすべての教科ではないのが課題として残った。 | ・年度や学期など授業評価の実施時期を示し、各教科において評価項目の策定を依頼し教務主導で導入したい。 |
| | ・令和5年入学生の新しい学習指導要領にそったカリキュラムの編成。 ・3観点による評価の導入に向けた研修を行う。 ・姫商生に付けさせたい資質・能力を教科ごとに考え、教科横断的な教育活動ができるようにする。 ・特別活動における観点別評価を設定する。 ・総合的な探究の時間について計画を立てる | ・評価カリキュラム委員会を通して新教育課程を考えることができた。 ・3観点別の評価による研修を行い、職員全体の共通認識を持たせることができた。 | B | ・来年度各教科で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」3つの観点からの評価になっているか検証する必要がある。 | ・総合的な探究の時間の導入にあたり、本校のキャリア教育を意識しキャリアセンターや教務部が中心になり全職員で取り組む必要がある。 |
| | ・県立学校学びのイノベーション推進事業により校内LANが整備されたことに伴い、タブレットPCや単焦点プロジェクタなどのICTを活用した授業やBYODによる授業など、教員の活用能力の向上と授業の中での積極的な活用を推進する。 | ・デジタル教科書やなどの活用を行った。 その他、デジタル教材の開発などDXが進んだ。 | A | ・情報化社会に主体的に対応できる情報教育を推進し、情報技術や情報を適切に活用する能力及び情報モラルを育成する意識を全職員が持つようにしたい。 ・また、知的財産に対する権利の意識を向上する指導に取り組む必要もある。 | ・生徒指導部などの情報モラル教育も情報教育の一環として位置づけ今後の対応を学校全体の課題として考えていく。 ・デジタル教科書など活用とすべての教科でタブレットコンピュータの活用を考えてもらい、授業の利用単元を考えてもらう。 |

| | 重点目標 | 成果 | 評価 | 課題 | 改善策等 |
|--------|---|---|----|--|---|
| システム管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインネットワークサービスである、google Classroomやoffice365のアカウントの管理やサービスの方針研修を行う。 ・BYOD授業の補助などを積極的に行う。 ・情報セキュリティ実施手順の策定を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの教科でタブレットと単焦点プロジェクトを用いた授業が展開できた。BYODなどの授業の試みから実施をすることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の積極的活用が一部の職員になりがちで、活用の利便性と生徒の分かりやすさを今後も広めていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にICT機器の研修会を行う。個別指導なども行う ・chromebookへ導入する新しいアプリについても積極的に検討を行う。 ・授業でどのようにICT機器を活用するのかを検討するプロジェクトチームを立ち上げ、積極的に提案していく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校学びのイノベーション推進事業により校内LANが整備されたことに伴い、タブレットPCや単焦点プロジェクトなど管理を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内LANについては、年度末に「学びのイノベーション」の追加希望調査があり、校内のほとんどの場所で整備することができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・体育館の無線LANが導入されておらず、現状のままでは体育の時間にchromebookを活用することができない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育館の無線LANの整備を推進する。 |
| 生徒指導部 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、自転車通学生が大部分である現状を踏まえ、交通マナーの向上と交通安全の高揚を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の交通安全運動(下校時)を実施。 ・自転車交通安全指導。 ・交通安全講習会(1学年)。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・並列走行、スマホ運転が多い傾向。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常から呼びかけを継続するとともに正しい交通マナーを理解させるとともに、家庭との連携を図る。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・校則の見直し。 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会通念を鑑みて見直しを行う。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員との共通理解を得るのが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校の伝統を継承しつつ、積極的改善を継続検討していく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ事案の把握と撲滅。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施及び、聞き取り。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに記入されていないトラブル事案が数件あった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施回数とアンケート内容の見直しを検討。 |
| 生徒支援部 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通して心身の健康の保持・増進に必要な自律的能力を培い、生涯にわたって主体的に健康な生活を保持するための基礎を培う。 ・新型コロナウイルス感染症対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の事前・事後措置の機会を活用し集団 ・個別に自らの健康に関心を持つ指導を行った。 ・感染症対策のため検診実施方法を見直し三密を回避する方法で実施した。 ・保健室の機能を十分にかしながら、保護者や学校医と連携を密にし、心身の健康問題の早期発見や早期治療、疾病の予防に努めた。 ・学校全体で感染症予防に取り組んだ。また全職員で消毒や感染予防の環境整備を実施した。 ・感染拡大期も家庭内感染が主で、通常の学校生活では校内感染が起きることはなかった。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果を受けて、生徒自らが健康意識を持ち、健康の保持増進につながる行動がとれない生徒がある。 ・集団での健康診断時のプライバシー保護の徹底が困難。可能な範囲で最大限配慮し実施している。 ・生徒が病院受診する時間の確保が難しい。 ・がん教育の準備が遅れている。 ・目に見えない感染というものを理解することが難しいため行動変容がおこりにくい。生徒職員ともにその行動の必要性の理解を促すことに苦労している。終わりのない状況に疲れや慣れが生まれて危機意識の低下がみられる。 ・感染拡大期の職員負担が大きかった。自覚ある行動がとれない生徒が一定数あった。 ・修学旅行での感染防止が困難。 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断後の事後指導を個別に丁寧に進める。 ・健康教室を増やし、生徒が健康に関心を持つ機会を増やす。 ・学校として生徒の日常生活の中に病院を受診し定期健診や検査、治療を受けるための日を確保する。 ・がん教育研修会等に参加し実施できるよう準備する。 ・役割分担見直しと職員の負担軽減を考えていく。タイムリーな情報発信と対策の重要性を継続して伝えていく。 ・感染拡大期には保護者と協力し健康観察と行動制限を行い、感染予防のための取組に理解を求める。 ・修学旅行の実施時期、方法の見直しが必要。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域社会との連携を図りながら多様性の社会の中で、生徒にその一員としての共生の心を育成し、生命の大切さを体得する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・専門機関と連携し個別に支援を必要とする生徒への支援を組織的に行った。 ・キャンパスカウンセラーを3人体制にしアサーションやソーシャルスキルトレーニングを実施し生徒の進路実現のサポートを行った。 ・月一回特別支援校内委員会を実施し支援の必要な生徒の状況を共有できた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒の把握と情報共有を円滑に実施する必要がある。 ・支援が必要な生徒の中学校からの情報提供がない場合があり、対応が遅れが出る場合がある。 ・支援ファイルの定期的な更新ができていない場合がある。 ・特別支援校内委員会のメンバー全員がそろわなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに支援が必要な生徒の把握、ファイルの作成更新、情報の共有までのスケジュールを作成し確認する。情報が更新されるごとに共有を行えるよう体制を整える。 ・可能な限り入学時に把握する。入学後把握した場合は必要に応じ保護者・中学校・関係機関と連携し生徒が学校生活で困難な状況にならないよう努める。 ・キャンパスカウンセリングをさらに生徒に開かれた機会にする。 ・特別支援校内委員会を時間割に組み込みメンバーが全員出席できるようにする。 |

| | 重点目標 | 成果 | 評価 | 課題 | 改善策等 |
|----------|--|---|----|--|--|
| キャリアセンター | ・各学年一貫した進路指導目標を定め、自己実現を達成するために必要な勤労観・職業観を育成し、進路意識を高める指導体制の充実を図る。 | ・3学年との毎日の打合せや適宜学年会議において、連携を図った。また、各学年実施の進路行事では学年進路担当者との連携を図った。 | B | ・多様な進路支援が必要となるため、3年生への支援が業務の中心となり、他学年との連携が手薄になった。 ・時間割や業務の都合等でキャリアセンターと学年進路担当との打ち合わせの時間が持てなかった。 | ・入学時から三年間を見据えた計画を立て、学年の動き、情報をより把握するためには、放課後等の時間を利用しての連絡会の時間を持つことが望ましい。 |
| | ・進路選択の支援・援助を図るために、進路相談を計画的に行い、自己の可能性や適性を理解させるとともに、主体的な進路選択能力を育成する。 | ・就職面では、キャリアセンターとの面談、卒業生を囲む会・応募前職場見学・ビジネスマナー講座・インターンシップ・職業講話・公務員学習会を実施した。また、生徒・保護者向けの説明会も実施した。 ・進学面では、キャリアセンターとの面談、卒業生を囲む会、志望理由書講座、学年またはキャリアセンターが提案し進めたものもあった。 ・模試に関しては実力診断テストを取り入れ、具体的な学校名や職種に対する適性を生徒・教師ともに共有できるようにした。 | B | ・3年生の進路決定時に、社会が抱える課題に対して、これまでの学びを通して、自分自身がどういった立場から貢献できるかを見通せない生徒が多数いる。 | ・卒業後を見据えた3年間のキャリア活動における、ねらいや目標を明確にし、周知していく。 ・これまでの取り組みは継続しつつ、来年度から実施する「総合的な探究の時間」と連動して、将来のビジョンを描けるような計画が必要である。 |
| | ・キャリア教育の視点から、計画性と系統性を持った教育課程を編成する。将来の進路につながる選択教科・科目等の設置については、生徒の現状を踏まえ、そのあり方を絶えず検証し、改善を図る。 | ・総合的な探究の時間(1年)のなかで、キャリア教育の視点をもった活動ができた。 | C | ・1、2年が連動した計画性と系統性を持った教育課程が変遷できていない。 | ・2年総合的な探究の時間の内容が大まかに定まり、内容を深化させることで計画性と系統性を持った教育課程を編成する。将来の進路につながる選択教科・科目等の設置できるようにする。 |
| | ・進路指導上の重要な指導事項に係る情報管理を徹底するとともに、学校の進路指導方針の教職員間での共有を図り、生徒・保護者に対する説明責任を果たす。 | ・校外研修や講演会、ボランティア活動など様々な角度から地域について学ぶ機会を持ち、課題研究につながる素地を育成する活動ができた。 ・実践した活動についてはホームページなどを通じて紹介し、生徒のキャリア形成の状況を共有することができた。 | B | ・各部・学年、各教科が単独で活動していることが多く、生徒に対して実施しているキャリア活動の把握が難しい。 ・学期ごとに振り返りと活動報告書の記入内容の深化が必要。 | ・生徒のキャリア活動の根幹をにない、各部・学年、各教科に広げていくようにする。 ・キャリアについて考える学年行事を設け、活動や検定の振り返り、進路について考える機会を設ける。 |
| 商業科 | ・専門教育の深化を図るとともにスペシャリストを育成するために、個々のニーズや時代の流れに合った商業の教育課程や指導方法を確立する。 | ・教育課程の見直し(選択科目の実施内容の変更) ・課題研究の実施内容・方法の変更 ・特別非常勤講師等の活用 ・受験検定の精選(1年次での日商簿記3級受験により2年次日商簿記検定2級合格者の増加) 3年生の日商簿記2級合格者が2年連続60名ごえ日商簿記1級合格者 | A | ・課題研究の実施方法を変更したが、商業科目内で課題研究につながる取り組み(生徒に考えさせ、提案、発表、コンテストへの応募への推奨) ・日商簿記3・2級の合格者およびITパスポート等の国家資格合格者の増加 ITパスポート受験料が¥7,500と来年度から値上がりするため検討が必要 | ・1年次より課題研究に向けた体系的な授業展開の実施 ・資格取得だけではなく、ビジネス事例を用いたグループ学習や発表の機会を増やす。また、ビジネスゲームや各種コンテストへの応募を通じ、知識を活用しアイデアを生み出すことで課題研究につなげる授業展開を行う。 ・市役所や姫路青年商工会議所と連携を取り、講師確保に務める ・高崎商科大学との連携により日商簿記講座の動画視聴による学びが可能となったため、反転学習や復習学習に活用することで、自宅学習の習慣を付ける。 ・アルゴリズムの考え方や仕組み理解を中心とした授業展開を実施し考え抜く力を身に付けることにより、合格率上昇につなげる指導を展開する。 |
| | ・デジタル社会に対応したスマートスクール構想の実践 | ・様々な場面での活用が広がっている。 ・動画配信システムにより様々な行事や講演会を体育館に集めることなく実施が可能となった。 | B | ・教室のプロジェクターでは後方の生徒が見えにくい場合がある。 ・教室の雰囲気が発信側に分かりにくい点がある。 ・次年度の活用方法 | ・教室で担当する先生方に配信内容を事前に十分把握してもらうことが必要。 |

| | 重点目標 | 成果 | 評価 | 課題 | 改善策等 |
|-------|---|--|----|---|---|
| 情報科学科 | ・コンピュータの活用技術の向上と社会に触れる機会の充実 | ・工場見学がコロナ禍の影響で中止となっていたが、実社会の最新技術(希少金属再生技術)などに触れる機会を作ることができた。1年から3年まで情報科学科全員で兵庫県立大学へ出向き、特別講義を受けた。大学生の影響を受け、文化祭や課研の発表会で自らの活動を見てもらう機会を得た。 ・専門学校や社会人デザイナーに講演講義をしていただき、現代の技術や今後の動向など講義をしていただくことができた。 | A | ・来年度も今年度のような外部への活動を実施し、実社会に触れる機会を作っていくなど考えていきたい。 ・3学年全体での活動を考え、情報科学科としての設立当初のスピリッツを生徒に植え付け、発信力と行動力を持ち合わせた人材を育成するために継続できるかが今後の問題点である。 | ・近隣の企業や研究機関との連携について考える。 |
| | ・工業科目(情報技術)の理解と国家資格取得 | ・情報技術の基礎から応用技術まで、工業科目の中で段階的に展開して実施した。 ・導入された3Dプリンター2台、レーザー加工機1台の活用を図り授業の中での展開を考えた。 | B | ・新しい機器の実習での利用や教材研究にどのように役立てたか検証したい。 ・次年度の特徴学科教育コンピュータ更新に際し、どのような機器構成でどのような生徒を育成するかを、原点に振り返って考えていく必要性を感じた。 | ・生徒が自分で目標達成できたと感じる実習教材など考える。 |
| 1学年 | ・生活習慣・学習習慣の確立と主体的な進路選択に向けての取り組み | ・遅刻指導など根気強く指導し生活習慣と自己管理意識の育成に努めた。 ・chromebookを活用して、宿題を配信し、家庭学習の習慣を身に付けさせた。 ・総合的な探究の時間では、「locus」を導入。企業訪問を実施した。 ・外部講師による講演会を聞く機会が多くあり、その事前学習を行うことにより、将来の職業に対し、イメージさせることができた。 | B | ・総合的な探究の時間ではアプリ「locus」導入したが、計画的に活用ができていない。 ・主体的な進路選択を促すため、学年集会等で卒業後の進路実現に向けた具体的な取り組みについて情報発信してきたが、全員にはそれが届いていない。 | ・総合的な探究の時間で訪問した事業や外部講師による講演会などで自身の興味関心を広げ、幅広い年齢の人と触れ合うことで社会性を育み、自分の言葉で語れる体験を増やしていきたい。 |
| | ・自己理解とコミュニケーションを深めるための取り組み | ・校内オリエンテーション、体育大会、文化祭と限られた行事の中で、お互いの個性を認め合い、生活面、学習面ともに互いに切磋琢磨する様子が見えかけた。 ・挨拶をはじめとする基本的生活習慣が確立し、集団生活を通して自分の役割を果たす様子が見えかけた。 | B | ・限られた行事であったため、行事の中でクラスが丸くなって、取り組むことや、友人とのコミュニケーションスキルに課題がある。 ・こちらの提案に対して消極的な態度の生徒の指導方法を工夫する必要がある。 | ・体験活動を通じて、自分の長所や短所に気づかせ、自ら改善しようとする態度を育成する。 |
| 2学年 | 自ら学び、自ら考える力を育成すると共に、基礎・基本の定着と実践力を身につけ、個を生かす学習指導の充実に努める。 | 自らの目標を持ち、計画的に資格取得を目指すなど、主体的に取り組む姿が見られた。 | B | 目標設定が定まっていない生徒は学習意欲の向上が見られず、検定資格取得に対する意欲の低下も見られた。 | 進路を見据えた学習活動を確立するため、個に応じた指導の実施と目標の再確認を行う必要がある。ミスマッチを起さないためにも丁寧に対応していきたい。 |
| | 防災教育の充実を目指し、正しい防災リテラシーを身につける。 | 講演会やHUG・避難所体験活動を通して避難所で必要な人権意識や知識を蓄えることができた。また、震災学習交流において災害の恐ろしさを再確認し、防災の重要性を体感した。 | A | グループディスカッション等で自分の意見を述べることはできるが、当事者意識が足りずに話を進めてしまうことがある。 | より実践的なイメージが思い描けるような避難訓練の実施により、災害時に自分のことだけではなく行動できる力を育成できるようにする。 |
| | 規律を重視する姿勢を身につけさせるため、信頼関係を基本とした指導を目指す。 | 修学旅行を通して集団としての規律を意識した行動をとることができた。また、クラス間を越えて信頼関係を構築することができた。 | B | 一部の生徒はその場の楽しい雰囲気にもまれて、風紀を乱すような行動があった。 | 生徒たちに必要な倫理観を道徳教育の一環として行い、何がどのようにいけなかったのかわかるように説明する必要がある。 |
| 3学年 | 自ら学び、自ら考える力を育成すると共に、基礎学力の定着を図り、多くの資格取得をめざす。 | ・進路実現に向け、一つでも多くの資格を取得しようと努力する生徒が増えた。 | B | ・1年次から資格取得の重要性を指導するが、生徒になかなか定着しない。 | ・全職員がさまざまな場面で専門高校生として資格取得の重要性を指導する必要がある。 |
| | 集団の規律を重んじ、社会性、協調性を身につけると共に、コミュニケーションを大切にし、信頼関係を構築する。 | ・様々な学校生活の中で、お互いの個性を認め合う生徒が増えた。 | B | ・集団になじめない生徒、なじもうとしない生徒が増えている。 | ・学校行事を増やし、相互理解力とコミュニケーション力を高めていく必要がある。 |
| | 主体的な進路選択が出来るよう指導・助言すると共に、家庭との連携を密にする。 | キャリアセンターの指導を中心に、早い段階から小論文対策や面接練習等を実施し生徒の進路意識を高めた。 | B | 受動的な態度で取り組む生徒への高い意識付けを必要とした。 | 入学時より社会問題に目を向けさせ、自分の意見を持つ習慣を身につけさせる必要がある。 |